

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201718		
法人名	社会福祉法人 弘前愛成園		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	青森県弘前市大字金属町5番地30		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外部及び内部研修の充実化を図ると共に、職員一人ひとりが資格取得に向けて努力しており、認知症ケアの専門性を高めることに力を入れている。 (認知症介護実践研修(実践者研修)修了者、介護福祉士資格取得者それぞれ半数の職員が終了・取得) (認知症介護実践研修(リーダー研修)修了者 2名) ・当事業所の職員は、笑顔で明るく、穏やかな雰囲気づくりを心掛けており、利用者のみならず、施設にお見えになった方全員に心地良く過ごしていただけるよう努めている。 ・月1〜2回の行事を実施しており、その他にも地域の行事に参加する等、気分転換や生活の活性化に繋がられるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パンフレットに記載されている「いたわりと愛情に満ちた空間」というキャッチフレーズのとおり、利用者を大切にしている理念が実践されている。ホーム内は清潔に保持されており、床や家具等も木造で温かく、利用者により優しい環境である。また、相談室や非常時の物品を収納する物品庫、職員の更衣室・仮眠室・休憩場所等が確保されており、利用者のみならず職員にも働きやすい環境を整備している。決まった配置の人数の中で、通院引率や外出等にも配慮し、勤務体制や業務の見直しをしながら、より有効に利用者本位のサービス提供をしようとする姿勢が貫かれている。利用者個々に丁寧なアセスメントを行い、個別化された介護計画の下にサービスが提供されており、自立支援や尊厳を大事にすることを会議やカンファレンス、日常の申し送りの中で職員全員が共有し、利用者を大切にしている支援が実践されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらい		
			3. 利用者の1/3くらい		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、自分が認知症になったらどのような介護を望むかを、職員間で考えて作り上げたものである。目に付く場所に理念を掲示し、毎日の朝礼の際に唱和することで、ケアの指針を再認識している。	「地域の中で、自分らしさと生きがいを保ちながら、安心した生活ができるように支援します。」というホーム独自の理念を掲げており、地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっている。理念は、職員や家族、訪問者の目に触れやすい場所に掲示し、毎日の朝礼時にも唱和する等して共有化を図っており、理念が生きたサービス提供を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会に加入し、町内会の会議にも出席している。近隣町内会の行事へも積極的に参加している。また、近隣高校の吹奏楽部や中学校の奉仕活動を通しての交流も継続して実施している。	町内会に加入しており、地域の清掃奉仕に利用者と職員が一緒に参加する等、地域との交流を図っている。また、ホーム便りを回覧板に挟んでもらう等の働きかけを行っており、利用者家族や知人等の面会者も多く、地域に開かれたホームである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所を検討されていない方でも、見学希望の地域住民を受け入れている。その際、認知症の支援の仕方やサービスに関しての質疑に答えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や実施予定行事、目標達成計画等の報告を行っている。会議で出された意見は、貴重な意見として、議事録を職員へ回覧・報告し、検討している。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、利用者家族や民生委員、行政の担当課職員等が参加している。会議では利用者の状況やホーム行事、目標達成計画等について報告し、会議録を作成して職員へ回覧することで共有化を図りながら、必要なことは検討する等してサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている。より良いサービスを提供するために、市町村担当者へは事業所で問題が起きた時や、困り事を随時相談し、助言や指導を仰いでいる。	運営推進会議への参加を得ている他、ホームのパンフレットや広報誌等の配布、評価結果等の提出も行っている。利用者に関することは勿論、より良いサービス提供のために、市の担当者へはホームでの問題や困ったことを相談し、助言や指導を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してのマニュアルの整備、勉強会を実施し、身体拘束の弊害等を周知している。身体拘束に繋がらないための防止策や支援の工夫を職員間で検討している。	日中は玄関の施錠をせず、居室にも鍵を付けていない。職員は身体拘束がもたらす影響や拘束の内容について理解を深めており、身体拘束をしない利用者支援の実践に努めている。また、マニュアルも整備しており、やむを得ず拘束を行う場合には家族からの同意や記録を残す体制を整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアル、発見時の対応の流れについて整備している。虐待についての勉強会を実施して理解を深めると共に、虐待に繋がり兼ねない対応がないかを職員間で再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所の出前講座等を利用し、勉強会を開催し、職員が学ぶ機会を設け、制度を必要とする方が利用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を設けており、はっきりと分かりやすい言葉での説明を心掛け、書面にて同意を得ている。疑問点があればいつでも連絡していただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た際には、職員から積極的にコミュニケーションを図る等の工夫を行っている。意見や要望を記入できる用紙を郵送したり、アンケートの依頼も行っている。また、法人内に第三者委員会を設置している。	重要事項説明書に苦情に関する事項を掲載し、ホーム内にも掲示している。また、意見箱を設置しており、日常的に苦情等に対応できるように取り組んでいる他、第三者委員会を設置しており、必要に応じて外部へも苦情等を述べる体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催している職員会議にて意見交換を行い、出された意見を運営に反映させている。また、職員へのアンケートを実施したり、個別に面談する機会を設けている。	月1回、定期的に職員会議を開催し、職員が意見を述べる機会を確保している。また、申し送り時やカンファレンス等の開催時にも、職員が意見を述べる体制を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、給料や賞与へ反映されるような仕組みがある。また、非常勤職員から準職員、準職員から正職員へ登用する仕組みもある。年2回の健康診断を実施し、職員の健康管理にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に関して、年間の研修計画を立てており、職員の経験年数を考慮しながら、年間を通じて全職員が研修へ参加できるような取り組みを行っている。研修参加後は復命報告会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修会や事業所内での研修会にて、情報交換する機会がある。他事業所からの見学を積極的に受け入れ、情報交換を行っている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には訪問調査に出向き、利用者と面談しながら、思いやニーズ、生活状況、希望や要望等を把握できるように努め、受容・共感・傾聴を大事にし、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には電話のやり取りだけではなく、訪問調査に出向く等、面談する機会を設けている。その際には家族の思いや要望を把握できるように努め、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の段階で、利用者や家族が困っている事やどのように過ごしていきたいか等、会話の中から引き出せるようにし、必要としている支援の見極めを行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に置き、料理の作り方や郷土の習慣、津軽弁を教えてもらう等、職員側の一方的な働き掛けだけではなく、共に生活しているという意識を持つように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には利用者の日々の暮らしぶりを伝え、家族からは嗜好や趣味等の情報を得るようにしている。新たな課題が発生した際には家族へ相談し、共に支えていくという意識で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた馴染みの理・美容院や、信頼して通院を続けている病院へ行くことができるよう支援している。知人が面会に訪れることもあり、取り次ぎを行っている。	入所前から利用していた理・美容院や医療機関に継続して行くことができるよう支援している。家族との電話のやりとりを支援している他、知人等の面会時には今後も利用者との交流を維持できるように働きかけており、利用者がこれまで大切にしてきた関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間の情報交換を密に行い、利用者同士の関係や孤立しがちな利用者を把握し、様子観察に努めている。孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入り、皆で交流を図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際には、何かあったらいつでも連絡をするように伝えており、他の施設を探して欲しいと相談があった場合には連絡・調整を図り、良好な関係が継続できるように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や仕草、表情をよく観察し、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合には、家族からの情報を参考に、利用者の立場に立って考えるように心掛けている。	利用者の様子や表情、日常における会話等から思いや意向を感じ取り、声掛けや話をする事によって希望等の把握に努めている。必要に応じて家族や関係機関から情報を得ている他、職員は利用者の立場に立って考えるように努めており、把握した意向等は申し送りや業務日誌等で共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、家族や担当ケアマネージャー等を通じて、利用者の情報収集を行っている。また、センター方式のアセスメントを取り入れ、入所契約時に意図を説明し、家族に記入依頼を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中の一つの課題にのみ注目するのではなく、1日の過ごし方や生活のリズム、その時の状況を把握し、できる事や分かる事が発見できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な計画の見直しや立案時期以外にも、利用者の状態変化に応じて、家族へ説明・相談し、職員間で情報交換を行いながら、現状に合ったサービス計画を作成するよう心掛けている。	センター方式のアセスメントを行い、利用者の生活歴や受診状況等を把握しており、一人ひとりに適した介護計画を作成し、定期的な見直しを行っている。また、利用者の状態変化等に応じて、随時介護計画の見直しをする等、自立支援及び利用者本位の介護計画の作成と実施に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の際には、サービス内容について、支援した結果や状況を月末に評価し、ケース記録に記録しながら、介護計画立案や見直しの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定日以外の外出や散策等、臨機応変に対応して、希望に沿えるような支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺住民の4名の方々が防災協力員としての役割を担っており、災害時の協力体制が整っている。また、利用者の楽しみの一つである納涼祭りに出掛けたり、高校の吹奏楽部に訪問をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、入所前からのかかりつけの医療機関へ継続して通院することができるよう支援している。内服薬の変更や受診結果を電話や面会時に報告している。	入所前の医療機関を継続して利用できる体制である他、利用者や家族の希望に応じた医療機関の利用を支援している。受診結果は家族や関係者への報告は勿論、職員間でも連絡ノート等を活用し、共有化できるように取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービス看護師が兼務で配置されており、介護日誌記録の確認や直接利用者と会話し、日々の健康状態を把握している。介護職員も利用者の健康状態の相談や助言、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は1週間に1度は面会に行き、医療関係者より利用者の状態を聞き、把握することに努めている。情報交換を密にしながら、退院後も安心して過ごすことができるよう、家族も含めて、早期退院へ向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の方針を明確にしており、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、かかりつけ医や家族と繰り返し話し合い、情報を共有しながら、今後の方針について検討している。	重度化や終末期については対応しないというホームの方針を明確にしており、利用者や家族に説明の上、同意を得ている。重度化した場合にはかかりつけ医や家族と話し合いを重ねて意思統一を図り、退所等の際には利用者及び家族の不安を軽減できるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故緊急時の対応マニュアルを整備し、見直しを図る等、いざという時に確実・適切な行動をとることができるように努めている。また、年1回、職員全員が救急救命講習を受けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練(火災・地震想定)を実施している。また、地域住民により構成されている防災協力委員参加の訓練を年1回実施している。消火器等の設備点検は防災関係業者へ依頼し、年2回実施している。	月1回、利用者と職員と一緒に避難訓練を実施しており、夜間や地震等も想定している。周辺の住民に訓練実施のお知らせをしている他、運営推進会議等でも協力を働きかけ、地域の防災協力員の参加も得ている。また、非常災害時に備えて食料や水、ストーブやおむつ等を用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが認知症について理解した上で、否定・拒否をすることがないように努めている。プライバシーを損ねるような声掛けにならないか、個人情報に配慮できているかを常に意識しながら、対応している。	利用者は「さん」付けで呼び、声掛けや話を聞く、説明をする際の対応については、プライバシーや個人情報保護についてのマニュアルがあり、内部研修を行う等して、本人を尊重する姿勢が職員間で徹底されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表すことができるような会話を心掛け、「はい」「いいえ」といった簡単な言葉で意思表示ができるよう、質問の仕方を工夫し、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や散歩、買い物、外出の支援等、利用者の生活リズムに合わせた対応を臨機応変に行っている。外出者が多数で対応が難しい場合は、後日外出する旨を伝え、了承していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容については、利用者や家族と相談の上、昔から親しみのある店に出掛けられるよう支援している。髪染めの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある物や、昔食べていた物、事業所の畑で収穫した物を献立に取り入れている。食事の際には職員が食の話題を提供したり、世間話をする事で、明るい雰囲気の中で食事を摂ることができている。	食事を準備する職員が毎日決まっており、食事の準備やテーブル拭き等、できる事は利用者に手伝っていただいている。法人内の栄養士が献立を作成し、季節に応じた食事を提供しており、利用者の好みを把握した上で、代替食の準備もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分不足とならないよう、一人ひとりの摂取状況を日々観察し、不足気味の方には嗜好品を取り入れる等しており、摂取量の記録を行いながら把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食べカスから誤嚥性肺炎の誘発に繋がることを職員は認識し、口腔内の清潔を保つことの重要性を理解している。毎食後、歯磨きの声掛けや見守り等、一人ひとりの能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ紙おむつを使用しない方針である。どうしても必要な場合でも安易におむつだけに頼ることはなく、最小限の枚数にしたり、個別の排泄パターンに合わせて、できるだけトイレ誘導・介助を行っている。	排泄の自立を心掛けており、排泄チェック表を見ながら時間毎に誘導したり、必要に応じてポータブルトイレの設置やリハビリパンツにする等、個別に応じた排泄支援に取り組んでいる。また、できるだけおむつ等を使用しないように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食に関しては、毎朝牛乳を取り入れ、繊維質の多い果物や野菜を献立に取り入れる等、工夫に努めている。なるべく自然排便ができるよう、テレビ・音楽体操を行い、体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週4回と決められた曜日ではあるが、希望の時間を聞いたり、体調に合わせて入浴支援を行っている。	週4回の入浴を実施しており、利用者の清潔保持に努めている。また、利用者の入浴習慣や好みを把握しており、体調等も考慮の上、利用者一人ひとりに合った支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者が休息している時は、無理に離床を促すことはせず、その都度意思確認を行い、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤配、誤薬等がないよう、配薬・投薬手順書に沿って服薬支援を行っている。薬の内容は個別ファイルに保管し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの日常の何気ない言動や会話から、要望、生きがい、楽しみ、気晴らしと思えるものを見つけ出し、職員間で情報交換・共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できる機会（行事等）を設けている。外出希望の時間帯によっては施設での対応が難しい場合もあるため、家族へ相談し、外出支援をお願いすることもある。	散歩やスーパーでの買い物等、日常的な外出を取り入れ、利用者の気分転換等に繋がるよう支援している。また、利用者に行きたい場所等を聞き、市内の桜祭りやねぶた祭り等、季節に応じた外出支援も行っており、必要に応じて家族等の協力も得ながら、利用者の生活の質を高めることができるよう、外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの能力に応じて、家族と利用者で話し合い、ある程度の金額を管理している利用者もあり、買い物、受診、理髪の際に支払いができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族、友人、知人からの電話や手紙、贈り物等がある。手紙を出したり、電話を取り次いだり、暑中見舞いや年賀状等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	騒々しい音が利用者に悪影響を与えることを職員は認識し、対応している。また、季節毎に装飾の工夫を行ったり、畑の様子や季節の花木等を共用空間から見ることで、季節を感じてもらえるよう努めている。	適切な温度・湿度管理の他、職員の声掛けは穏やかで騒がしくなく、ホーム全体が落ち着いた雰囲気となっている。また、季節を感じることができる飾り付け等の工夫もあり、居心地の良い空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や多目的室にはソファや畳の小上がりを設置しており、雑誌や新聞も備えている。気の合う利用者同士が談笑したり、一人で過ごされたい方の寛ぎのスペースとして活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の見学時に、馴染みの物を持って来ていただきたい旨、伝えている。長年使い慣れた家具や家族の写真、テレビ等を設置し、居心地良く過ごすことができるように支援している。	利用者各自に応じた居室となっており、それぞれが入所前に使用していた馴染みの家具や物品が持ち込まれている。家族の写真が貼っており、職員が必要に応じて居室の飾り付けや整理等を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態から、それぞれのできる事、分かる事を活かした環境づくりに努めている。各居室の戸はデザインが個々に異なるが、利用者にとっては分かり難いため、別の目印を付けている。		